



山城堰の歴史 「草止め」時代

山城水系土地改良区

太田 剛史



「山城堰」は、藩政期に常陸の国から秋田へ移封となった佐竹家の分家、佐竹東家が開削した用水路です。知行地の一つであった大森から大川西根までの雄物川西岸から出羽丘陵に挟まれた不毛の原野に雄物川の水を引き入れることで広大な田地を開拓するべく、1619年に藩より「指紙開」と称する開発許可を得ています。それ以来、四代にわたって用水路の開削を行い、完成まで58年の歳月が費やされたと記録されています。佐竹東家の受領名が山城守であったことから、その名をとって山城堰と呼ばれるようになりました。現在も、17km以上に及ぶ水路によっておよそ830haの水田を潤しています。

開削当初は「草止め」と称する土俵・木杭・柴などを

使った雄物川の一部締め切りによって取水していたようですが、開発により灌漑面積が増えるにつれて、1664年には300メートルにも及ぶ川幅全部を締め切るようになり、使用された材料は土俵3万俵、杭2万本、柴2千束を主としていた記録が残っています。

戦後になると草止めに使用する材料の入手が困難となったことや、9月になれば撤去しなければならないこと。また、水路の老朽化などから、昭和27年、県営かんがい排水事業としてコンクリート製の頭首工及び幹線用水路の改修工事に着手されたことで、三百年も続いた草止め工事もその姿を消し、近代的な施設へと移り変わっていきました。

未来への架け橋

秋田市孫左衛門堰土地改良区 石郷岡 歩



今年は大きな災害もなく無事に収穫の秋を迎えることができ、農家の皆様はほっと一息ついていることでしょう。

当管内では昨年より取り組んでいる多面的機能支払交付金を活用し、農業者と地元町内会及び子供会との交流を深めております。土地改良区では、いっからかでも組合員の負担軽減を図るために18活動組織の事務委託を受けており、私は主に日当支払いなどの会計処理を行っています。各活動組織の作業日報の整理をしていると、農地維持のためには水路の泥上げや年3回もの畦畔草刈り作業を行っているなど今まで知らなかった農家の苦勞を知ることが出来ました。この制度のお陰でこれまで組合員が無償で行っていた農作業に對しても労賃を支払えることができ「ありがたいなあ」「油代になって嬉しいなあ」といった喜びの声を聞くと、事務処理量は多くて大変ですがやりがいのある仕事だと実感しています。

また農村環境保全活動の一環として子供会と連携し児童による昔ながらの田植えや稲刈りの農業体験を実施しております。今は食べたい物がすぐに手に入る飽食の時代になりましたが、児童が収穫の喜びを感じながら水やお米の大切さを学んでもらう手助けをしていけたらと思います。

この活動をしていると農業者以外の方も事務所に顔を出してくれるので、土地改良区の啓発、普及にも繋がっていると感じます。これからも地域の方々と一緒に農地保全活動に取り組んでいきたいと思えます。



▲小学生の稲作体験



▲交付金支払いに対応中

特集 シリーズ②
農業水利施設内の「ゴミ」問題

現地踏査「皆瀬川・成瀬川の上流部の受益地でもゴミ問題に苦慮」

平成27年9月14日(月)、稲川土地改良区受益地で、土地改良区が抱える農業水利施設内のゴミの問題について意見交換を行うとともに、ゴミの実態を踏査した。

土地改良区事務所で阿部事務局長が「我が土地改良区は皆瀬川・成瀬川の上流部が受益地となっており、夏場の水不足は問題ないが、流木・枝折れや落葉のゴミが多くて見られ、近年は藻の発生により除塵機のスクリーンに絡み、維持管理に苦慮している」と話された。また、水利状況の確認のため、灌漑期及び降雪期は土地改良区の職員が毎日受益地内のパトロールを行い、組合員が安心して農作業に従事する環境づくり並びに地域住民が快適に流雪溝を利用できる生活環境づくりに努めているとのことでもあった。

現地の様子



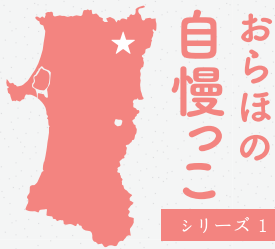
幹線用水路与惣右工門堰
分水工のゴミ除去作業状況



幹線用水路新処堰
流末付近ゴミの状況



黒坂堰頭首工の流木撤去作業状況



来てけれ! 鹿角市

鹿角市産業部
農林課 農地林務班
山崎 孝人

エダマメの生産拡大



用野目・鏡田地区では、畑作物の高収量と高収益を実現するため、県の暗渠事業を活用して高品質で多品種なエダマメ栽培を行っています。



花輪大堰水路



花輪大堰水路は花輪街部を縦貫する幹線用水路で、昭和43年の県営事業により整備され、現在、県営かんばい事業にて改修工事を予定しています。受益面積は424haと広大で、受益地内では本市のブランド米「淡雪こまち」やエダマメ、ソバなど様々な品目が生産されています。

淡雪こまち



「淡雪こまち」は“粘り”が特徴で、日本サッカー協会（なでしこJAPAN）への進呈を皮切りに、大学駅伝チームや地元中学・高校へ応援米として贈呈し、アスリートの食を支えるなど地域を代表するお米です。

農家のそば屋 したかわら



6次産業に取り組む「農事組合法人したかわら」が運営する農家レストランでは、つなぎを一切使用しない鹿角産100%の「十割そば」を提供しており、リピーターができるほど大変好評です。新ソバの収穫が始まりたい営業を開始する予定です。場所：鹿角市花輪字赤川69 電話：0186-25-3390

平成27年度

秋田県土地改良事業推進大会

- 平成27年10月30日(金) 午後1時00分
- 「鹿角市記念スポーツセンター」 鹿角市花輪字荒田4-1

今年は
鹿角市で
開催!!

第138回 秋田県種苗交換会

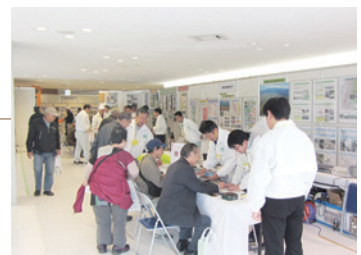
「農業農村整備フェア」を開催します!

農業の祭典『第138回秋田県種苗交換会』が、10月29日～11月4日まで鹿角市を会場に開催されます。期間中、水土里ネット秋田では農業農村整備事業のPRのため県内国営事務所、秋田県、秋田花まるっG・T推進協議会と共催で参考展示「農業農村整備フェア」を主会場の鹿角トレーニングセンターアルパスで開催します。1階廊下にて展示を行っておりますので、皆様のご来場をお待ちしております。

期間：平成27年10月29日(木)～11月4日(水)

場所：主会場(鹿角トレーニングセンターアルパス)

内容：各種パネル・事業模型の展示、土地改良相談コーナー、カレンダー作成など



昨年の農業農村整備フェアの様子



やっぱラーメンでしょ♪

水土里レポーター：三種町浜口土地改良区
三浦 英樹

三種町八竜地域にある、はまぐり食堂、地元の方はもちろんのこと、遠方からわざわざ訪れる方も多い人気の食堂です。

おすすめはラーメンですが(写真はミニ小鉢とミニライスのついたMMセット)、他メニューも豊富です。

近くには産直施設のドラゴンフレッシュセンターやメロディアンなどもありますので、新鮮な野菜などお買い物ついでに一度ご賞味あれ。



ラーメンにホルモンの小鉢をつけて



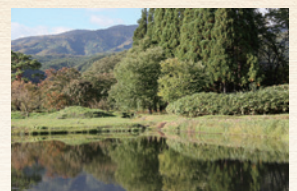
お肉屋さん直営の食堂！

秋の気配

水土里レポーター：土地連
菊地 均

田沢湖高原の付近で現場に向かう途中、秋の気配を感じました。

八幡平は紅葉がはじまったようで、この会報が出る頃には綺麗な紅葉が見られるのでは。



連 合 会 日 誌

8月27日	第9回秋田県土地改良区統整合備検討委員会	秋田市
8月28日	第2回理事会、第2回役員会	本会会議室
9月9日	全国ため池等整備事業推進協議会通常総会	東京都
9月9日	都道府県土地改良事業団体連合会事務責任者研修会	東京都
9月15日	平成27年度雄物川・米代川地域広域基盤確立推進協議会現地研修会	宮城県遠田郡
9月17日	平成27年度全国土地改良施設管理事業推進協議会研究会 ~18日	奈良県
9月28日	東北・北海道土地連連絡協議会第2回事務責任者会議 ~29日	山形県
9月29日	平成27年度小水力等発電導入技術力向上中央研修(指導者育成研修第1回) ~30日	東京都
10月7日	平成28年度農業農村整備事業関係予算概算要求に関する説明会・意見交換会 ~8日	北秋田市・秋田市
10月14日	第38回全国土地改良大会青森大会(15日) ~17日	青森市
10月15日	都道府県土地改良事業団体連合会長等会議	青森市
10月19日	はばたけ秋田の農業県民総決起大会	秋田市
..... 今後の行事予定		
10月30日	秋田県土地改良事業推進大会	鹿角市
11月4日	全国水土里ネット正副会長会議	東京都
11月4日	都道府県土地改良事業団体連合会長・事務責任者合同会議	東京都
11月10日	疏水ネットワーク平成27年度第1回通常総会	岡山県
11月10日	疏水フォーラムin高梁川流域2015 ~11日	岡山県
11月12日	2015ため池フォーラムinいしかわ ~14日	石川県
11月24日	平成27年度秋田の原風景を守り継ぐフォーラム	仙北市
11月27日	農業農村整備の集い	東京都

リレー vol.3 感想文



他地域の行事など、知らないことを知ることができとても勉強になっていて、毎回楽しく読んでいます。

由利本荘市土地改良区：松永さんより

会員だより

新理事長就任のお知らせ

次の方が新たに理事長に就任されました。

○潟上市天王土地改良区(H27.8.6)

理事長 鈴木美喜雄

編集後記

実家の稲刈りが、なかなか進みません(ーωー)。9月の連休前から刈り始めたのですが、6反程度刈れば、乾燥機の容量が一杯になってしまいますし、10月に入ってからは天候が不順で、稲刈り自体出来ない日も続いてしまいました。体育の日までに「あきたこまち」の出荷準備は終了しましたが、まだ、自宅で食べる分と、「ゆめおぼこ」の刈り取りが残っています。10月中に稲刈りが完了できるのか、心配な今日この頃です。
(事業調整センター◆加藤)

